

第 1 回本検討委員会の開催結果について

1 浦安市の情勢・観光の現況について

- ・ 浦安市の財政力指数が非常に高いにも関わらず、新税を導入するのはなぜかという点が議論になるが、浦安市は財政力指数で見ると財政的に余裕が無く、支出も多い状況である。
- ・ 今後、インフラ老朽化に伴う負担増加が危惧される。浦安市の財政状況を認識した上で、宿泊税の検討を進めていきたい。
- ・ 教育旅行マーケットは価格に対してシビアであり、TDR訪問を含む教育旅行において、宿泊税課税が競合都市との競争に与える影響を危惧している。
- ・ 教育旅行を契機に中学生・高校生の時に実際浦安市に宿泊する経験は、リピーター獲得にもつながる。
- ・ 宿泊者の中でインバウンド客の割合は10%程度である。
- ・ 連泊率は上がってきている。今後、東京ディズニーリゾートのエリアの拡張もあり、それにともない連泊率もあがるものとする。
- ・ 舞浜地区はオーバーツーリズムの影響が生じていると考える。朝晩の交通渋滞が激しく、タクシーが全く捕まらない。

2 宿泊税の課税要件について

- ・ 千葉県においても宿泊税導入を検討していることで、現場からは、宿泊税が二重課税にはならないかという懸念がある。
- ・ 福岡県の例にならって、県税と市税を足したものが他の自治体を超えることが無いことが望ましい。そのような方向で、今後の検討を進めてほしい。
- ・ 手続きの中で、市税・県税の分けが出てくると手間がかかるものになる可能

性があるため、検討課題のひとつである。

- ・ 宿泊税の課税対象となる宿泊施設では、民泊やバケーションレンタルの取り扱いが課題となると考えている。
- ・ 特別徴収義務者には、手続きに伴う負担に対する配慮やインセンティブ、システム更改の補助金等、行政支援をどのように考えていくか。

3 宿泊税の使途の検討について

- ・ 観光客を市中心部に誘客しても、市内を縦に動く交通手段が非常に乏しいという現状があり、宿泊税の使途の中でも渋滞の解消について非常に注目している。
- ・ 宿泊税を活用した観光振興をやっていききたい。
- ・ 最近ではインバウンド客が増加し、宿泊も増えている。今後、街なかの魅力向上や観光消費の創出が重要となる。
- ・ コンテンツ開発（アート、スポーツ、食、歴史など）や世界に情報発信できるようにしくみづくりについても検討してもらいたい。
- ・ 財政状況の厳しさが宿泊税導入の背景にあることから、新たな事業にどの程度投資できるかは課題である。
- ・ 宿泊税導入においては、資金使途の明確化が非常に重要である。
- ・ 千葉県の宿泊税使途案では、宿泊施設の人材育成・人材確保、人手不足解消に向けた取組みもあげられており、県と市との使途の違いを感じた。
- ・ 宿泊税導入の前例もいくつか出ているため、やり方を参考にしようまくできるように検討してほしい。

<その他>

- ・ 観光庁の補助金交付事業（オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続

可能な観光推進事業)を活用できないか。

- ・ 宿泊税導入にあたっての事前告知は重要で、しっかり市が主導して宿泊者が現地に來てからわかるということがないようにしてほしい。

4 アンケート(案)・ヒアリング(案)の内容について

- ・ アンケート回答期間を6月～7月としているが、6月は修学旅行生が多くを占めており、本アンケートに有効なサンプル数は少なくなると考える。
- ・ 宿泊者の意見をただ聞くだけだと、反対意見が多くなりがちであるため、宿泊税導入が必要だということを申し上げる必要がある。
- ・ 質問項目を絞って、説明を多くするというような配慮も考えられる。